

## 正しい使い方(2)パイラッククリップ

- ◎ 釘抜(パール)で釘が楽に抜けるのはこの原理で皆様よくご存じのことと思います。図①のように、釘が50Kgの力で抜けるとすると、このパールでは $50\text{Kg} \times \frac{10}{50} = 10\text{kg}$ の力で抜け、半分の25cmの所に力をかけると2倍の20Kgの力が必要です。図②のように、パールを2本ならべて矢印の方向に2本の釘を引抜くには、2本分の100Kgの力が必要です。
- ◎ これをパイラックに当てはめて見ます。パイラックにはφ14の孔があいていて、そこにパイラッククリップの足を入れて使用します。パールの例ではこの14mmが $A \times 2 = 20\text{cm}$ に該当します。クリップを下吊に使用するときは図②の場合と同様に、一对のクリップの強度一ぱいまで大丈夫なわけです。
- ◎ 図③のように横付に使用するのは図①の場合に該当します。上側のクリップにだけ力がかかりますから、吊下げた場合の2倍の力がかかっています。B寸法はパイプの径にしたがって大きくなり、荷重Wも径にしたがって重くなります。単純に考えて、パイプ径が2倍になり、Wが4倍になったとすると、上側クリップの爪には8倍の力が加わることになります。こうして、 $W \times B$ の値が増して、クリップに加わる力がクリップの強度を超えると、爪が伸びて外れてしまいます。
- ◎ 実際には実験から許容静荷重を定めておりますが、原理は上記の通りです。パイラック御使用の際、特にクリップ横付の際はカタログ記載の許容静荷重に御注意願います。
- ◎ **ネグロス製品は正しい使い方とその真価を発揮いたします。**

(技術 R. S)

